



## IVR を使用したネイティブ電話機の移行

- [セルフプロビジョニングを使用した電話機の交換または移行の概要, on page 1](#)
- [電話機移行の前提条件, on page 2](#)
- [セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行タスクフロー \(2 ページ\)](#)
- [電話機移行タスク \(8 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して電話機を移行 \(10 ページ\)](#)
- [共有電話を使用している電話機 \(11 ページ\)](#)

## セルフプロビジョニングを使用した電話機の交換または移行の概要

Unified Communications Manager でセルフプロビジョニング IVR サービスを使用して、管理者に連絡する必要なく、故障したデスク フォンまたはサポートが終了した古い電話機を直接移行または交換します。この機能を使用すると、簡単に電話機を置き換えて、同時にコストを最小化することができます。

Unified Communications Manager のセルフプロビジョニングを使用した移行では、既存の電話設定を新しい電話機に移行する際の初期設定要件を最小限に抑えることができます。移行または交換のために電話機をプロビジョニングする場合は、Unified Communications Manager で古い電話機を削除するか、または保持するかを選択できます。



### Note

セルフプロビジョニングの IVR を使用すると、認証されたユーザのプライマリ内線で電話機を移行または置き換えることができます。

電話ユーザは、ユーザ PIN を使用して IVR に対して認証されます。管理者は、指定された認証コードを使用して認証を行うことができます。

また、Cisco Unified Communications Manager の管理インターフェイスを使用して電話機を移行することもできます。「[Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して電話機を移行, on page 10](#)」を参照してください。

## 電話機移行の前提条件

エンドユーザが移行または交換の目的でセルフプロビジョニングを使用できるようにする前に、次の設定を構成する必要があります。

- 自動登録の有効化
- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。プライマリ DN が電話機またはデバイス上で常に回線 1 であることを確認します。
- エンドユーザは、ユニバーサル回線テンプレート、ユニバーサルデバイステンプレート、および自己プロビジョニングが有効になっているユーザプロファイルまたは機能グループテンプレートに関連付ける必要があります。
- 適切な「CTI ルートポイント」と「アプリケーションユーザ」の設定が選択されていることを確認します。
- セルフプロビジョニングの IVR サービスを有効にします。

セルフプロビジョニングの詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* のシステム設定ガイドの「セルフプロビジョニングの設定」セクションを参照してください。

## セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行タスクフロー

次のタスク フローを使用して、電話機の移行手順を説明します。

このワークフローを完了すると、セルフプロビジョニングの IVR サービスを設定したり、古いまたは異常な Cisco IP 電話を移行したり、移行された電話リストを追跡したりすることができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 1</b>	セルフプロビジョニングのサービスの有効化 (3 ページ)	Cisco Unified Serviceability で、[セルフプロビジョニング IVR (Self-Provisioning IVR)] サービスと [CTI Manager (CTI Manager)] サービスを有効にします。
<b>Step 2</b>	セルフプロビジョニングの自動登録の有効化 (4 ページ)	セルフプロビジョニング用の自動登録パラメータを有効にします。
<b>Step 3</b>	CTI ルートポイントの設定 (4 ページ)	セルフプロビジョニングの IVR サービスを処理するために、CTI ルートポイントを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 4</b>	CTIルートポイントのディレクトリ番号を追加する (5 ページ)	ユーザが自動プロビジョニング IVR にアクセスするためにダイヤルインする内線番号を設定し、その内線番号を CTI ルートポイントに関連付けます。
<b>Step 5</b>	セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定 (5 ページ)	セルフプロビジョニング IVR 向けのアプリケーションユーザの設定CTIルートポイントをアプリケーションユーザに関連付けます。
<b>Step 6</b>	セルフプロビジョニングのシステムの設定 (6 ページ)	自己プロビジョニングシステムの設定を構成します。
<b>Step 7</b>	ユーザプロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化 (7 ページ)	ユーザが割り当てられているユーザプロファイルで電話機をセルフプロビジョニングできるようにします。
<b>Step 8</b>	次のいずれかの手順を使用して電話機を移行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (管理者) (9 ページ)</li> <li>セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (電話機ユーザ) (8 ページ)</li> </ul>	自分に適用される移行手順を選択します。セルフプロビジョニングの IVR は、管理者または電話機のいずれかのユーザが電話機を移行する際に使用できます。
<b>Step 9</b>	電話機移行レポートの表示 (9 ページ)	移行の後、移行された Cisco IP 電話を示すレポートを表示します。

## セルフプロビジョニングのサービスの有効化

セルフプロビジョニング機能をサポートするサービスをアクティブにするには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニング用 IVR サービスと Cisco CTI Manager サービスの両方が実行されていることを確認します。

### 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] を選択します。
- Step 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リストからパブリッシャ ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Step 3** [CM サービス] で、**Cisco CTI Manager** を確認します。

- Step 4** CTI サービスで、セルフプロビジョニングの IVR を確認します。
- Step 5** [保存] をクリックします。
- 

## セルフプロビジョニングの自動登録の有効化

セルフプロビジョニングにこの手順を使用するためには、パブリッシャで自動登録パラメータを設定する必要があります。

### 手順

---

- Step 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[システム (System)] > > [Cisco Unified CM] を選択します。
- Step 2** パブリッシャノードをクリックします。
- Step 3** プロビジョニングされた電話機に適用するユニバーサルデバイステンプレートを選択します。
- Step 4** プロビジョニングされた電話機の電話回線に適用するユニバーサル回線テンプレートを選択します。
- Step 5** 開始ディレクトリ番号と終了ディレクトリ番号フィールドを使用して、プロビジョニングされた電話機に適用する一連のディレクトリ番号を入力します。
- Step 6** [この Cisco Unified CM では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオフにします。
- Step 7** SIP 登録に使用するポートを確認します。ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。
- Step 8** [保存] をクリックします。
- 

## CTI ルート ポイントの設定

セルフプロビジョニング IVR 用の CTI ルート ポイントを設定するには、この手順を使用します。

### 手順

---

- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- Step 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、既存の CTI ルート ポイントを選択します。
  - [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい CTI ルート ポイントを作成します。
- Step 3** [デバイス名 (Device Name)] フィールドに、ルート ポイントを識別する一意の名前を入力します。

- Step 4** [デバイスプール (Device Pool)] ドロップダウン リストで、このデバイスのプロパティを指定するデバイス プールを選択します。
- Step 5** [ロケーション (Location)] ドロップダウンリストから、この CTI ルートポイントの適切なロケーションを選択します。
- Step 6** [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] ドロップダウン リストから、Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントを使用してトラステッドリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。デフォルト設定では、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の設定が使用されます。
- Step 7** [CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 8** [保存] をクリックします。

## CTI ルートポイントのディレクトリ番号を追加する

セルフプロビジョニング用の IVR にアクセスするためにユーザがダイヤルする内線番号を設定するには、この手順を使用します。この内線を、セルフプロビジョニングに使用する CTI ルートポイントに関連付ける必要があります。

### 手順

- Step 1** Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration) から[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- Step 2** [[検索 (Find)]] をクリックして、セルフプロビジョニング用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- Step 3** [割り当て (Association)] で、[回線 [1] - 新しい DN の追加 (Line [2] - Add a new DN)] をクリックします。  
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- Step 4** [ディレクトリ番号] フィールドで、セルフプロビジョニングの IVR サービスにアクセスするためにユーザにダイヤルする内線番号を入力します。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 6** [ディレクトリ番号設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 7** [保存] をクリックします。

## セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定

セルフプロビジョニング IVR 用にアプリケーションユーザを設定し、アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティングポイントに関連付ける必要があります。

## 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ (User)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] を選択します。
- Step 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のアプリケーションユーザを選択するには、[検索 (Find)] をクリックして、アプリケーションユーザを選択します。
  - 新しいアプリケーションユーザを作成するには、[新規追加] をクリックします。
- Step 3** [ユーザ ID (User ID)] テキスト ボックスに、アプリケーション ユーザの一意の名前を入力します。
- Step 4** アプリケーション ユーザの [BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group)] を選択します。
- Step 5** アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティング ポイントを関連付けるには、次の手順を実行します。
- 作成した CTI ルーティング ポイントが、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リスト ボックスに表示されない場合は、[別のルート ポイントを検索 (Find More Route Points)] をクリックします。  
作成した CTI ルーティング ポイントが、使用可能なデバイスとして表示されます。
  - [使用可能なデバイス (Available Devices)] リストで、セルフプロビジョニング用に作成した CTI ルート ポイントを選択し、下向き矢印をクリックします。  
CTI ルート ポイントが [制御するデバイス (Controlled Devices)] リストに表示されます。
- Step 6** [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの他のフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 7** [保存] をクリックします。
- 

## セルフプロビジョニングのシステムの設定

システムをセルフプロビジョニング用に設定するには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニングは、ネットワーク内のユーザが管理者に連絡をとらずに IVR システムを介して自分のデスクフォンを追加できる機能を提供します。



- (注) セルフプロビジョニング機能を使用するには、エンドユーザのユーザプロファイルでも該当機能を有効にする必要があります。
-

## 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。
- Step 2** セルフプロビジョニング IVR でエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。
- [認証が必要 (Require Authentication)]: セルフプロビジョニング IVR を使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。
  - [認証は必要なし (No Authentication Required)]: エンドユーザは認証なしでセルフプロビジョニング IVR にアクセスできます。
- Step 3** セルフプロビジョニング IVR で認証を要求するように設定されている場合、次のオプション ボタンのいずれかをクリックして、IVR がエンドユーザを認証する方法を設定します。
- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)]: エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
  - [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))]: エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。
- Step 4** [IVR 設定 (IVR Settings)] のリストボックスから、矢印を使用して IVR プロンプトで使用する言語を選択します。使用可能な言語は、システムにインストールした言語パックによって異なります。追加の言語パックをダウンロードするには、[cisco.com](http://cisco.com) のダウンロードセクションを参照してください。
- Step 5** [CTIルートポイント (CTI Route Points)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング IVR 用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- Step 6** [アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング用に設定したアプリケーションユーザを選択します。
- Step 7** [保存] をクリックします。
- 

## ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化

ユーザが電話をセルフプロビジョニングできるようにするには、その機能が割り当てられているユーザプロファイルで有効になっている必要があります。



- (注) ユーザが使用しているユーザプロファイルがわからない場合は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでユーザの設定を開き、[ユーザプロファイル (User Profile)] フィールドで正しいプロファイルを確認できます。
-

## 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] & [ユーザ設定 (User Settings)] & [ユーザプロファイル (User Profile)] を選択します。
- Step 2** [検索 (Find)] をクリックして、ユーザが割り当てられている**ユーザプロファイル**を選択します。
- Step 3** そのユーザ プロファイルに**ユニバーサル回線テンプレート**と**ユニバーサル デバイス テンプレート**を割り当てます。
- Step 4** セルフプロビジョニング用のユーザの設定
- [エンドユーザの電話機のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] のチェックボックスをオンにします。
  - ユーザがプロビジョニングできる電話機の数制限を入力します。デフォルトは 10 です。
  - ユーザがセルフプロビジョニングを使用して以前に割り当てられた電話機を無効にしたい場合は、古いデバイスのエンドユーザに関連付けられているユーザプロファイル ページで、別のエンドユーザに割り当てられている電話機の **[別のエンドユーザーにすでに割り当てられている電話のプロビジョニングを許可する]**設定を確認します。以前に割り当てられた電話機をユーザが再割り当てできるのは、古いデバイスに関連付けられているユーザプロファイル内でこのチェックボックスをオンにした場合のみです。
- Step 5** [保存] をクリックします。
- 

## 電話機移行タスク

セルフプロビジョニング認証をセットアップした後、次の手順を実行して電話機を移行します。

### セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (電話機ユーザ)

電話機のユーザはこの手順を使用して、新しい Cisco IP 電話に移行できます。

#### 始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続して、電話機が登録されてから移行タスクを実行することができます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

#### 手順

- 
- Step 1** セルフプロビジョニングの IVR に割り当てられている内線番号を新しい Cisco IP 電話からダイヤルします。
- Step 2** 2 を押すと、既存の電話機が置き換え可能です。
- Step 3** 電話機のプライマリ内線番号の後にポンド キー(#)を入力します。



**Step 4** ポンドキー (#) の後に PIN を入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行が正常に実行された後、電話機は古い電話から移行された設定で再実行されます。

(注) 電話機を別のユーザに割り当てる場合、管理者がユーザの [ユーザ プロファイル ウィンドウで別のエンドユーザに割り当てられている電話機のプロビジョニングを許可] オプションが有効になっている場合、電話機のユーザは電話機を再プロビジョニングできません。このオプションについて管理者に問い合わせてください。

## セルフプロビジョニング IVR を使用した電話機の移行 (管理者)

管理者はこの手順を使用して、エンドユーザの代わりに Cisco IP 電話を移行したり、一般的な電話機 (ロビーフォンなど) を移行したりできます。

### 始める前に

移行を進める前に、古い電話機が「未登録」状態になっていることを確認します。新しい電話機をネットワークに接続して、電話機が登録されてから移行タスクを実行することができます。移行が正常に完了すると、デバイスはユーザの電話設定データに再登録されます。

### 手順

**Step 1** セルフプロビジョニングの IVR に割り当てられている内線番号を新しい電話機からダイヤルします。

**Step 2** 2 を押すと、既存の電話機が置き換え可能です。

**Step 3** エンドユーザの電話機または共通の電話のプライマリ内線番号の後にポンドキー (#) を入力します。

**Step 4** 認証コードの後にポンドキー (#) を入力します。

移行は、認証が正常に行われた後に開始されます。移行の後、電話機は、エンドユーザの古い電話から移行された設定で再起動します。

## 電話機移行レポートの表示

移行されたすべての Cisco IP 電話のリストを表示するには、この手順を使用します。

## 手順

- 
- Step 1** [Cisco Unified CM Administration] で、[デバイス (Device)] &gt; [電話 (Phone)] の順に選択します。
- Step 2** [電話機の検索とリスト] ページで、[電話機検索] ドロップダウン リスト) から [移行(古い電話機)] を選択します。
- Step 3** [検索 (Find)] をクリックします。

移行したすべての古いデバイスのリストを表示できます。このリストが入力されるのは、[エンタープライズ パラメータ] ページで [既存の電話機を保持する] オプションが設定されている場合のみです。

---

## Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して電話機を移行

Cisco Unified CM の管理インターフェイスの [電話テンプレート(Phone Template)] または [電話タイプ(およびプロトコル)] オプションのいずれかを使用して電話機を移行するには、この手順を使用します。

## 手順

- 
- Step 1** [電話の検索と一覧表示(Find and List Phones)] ウィンドウ ([デバイス &gt; 電話] で、移行する Cisco IP 電話の設定を検索します。
- Step 2** 移行する Cisco IP 電話の [電話の設定(Phone Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク(Related Links)] ドロップダウン リストから [電話機の移行 (Migrate Phone)] を選択します。
- Step 3** 次のオプションを使用して、電話機を移行できます。
- a) [電話 テンプレート(Phone Template)]: 電話機の設定を移行する電話機モデルの電話機テンプレートを選択します。
  - b) [電話機のタイプ(およびプロトコル)]: 電話機の設定を移行する Cisco IP 電話モデルを選択します。
- Step 4** 設定を移行する新しい Cisco Unified IP 電話の **MAC アドレス** を入力します。
- Step 5** (オプション) 新しい電話の説明を入力します。移行の検討事項と設定の詳細については、*Cisco Unified CM* の管理のオンラインヘルプ ページ を参照してください。
- Step 6** [保存] をクリックします。

新しい電話機は機能が失われる可能性があるという警告メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。移行後、新しいデバイスは古い電話機の設定を継承します。

---

## 共有電話を使用している電話機

旧バージョンの電話機にプライマリ DN と複数のデバイスが共有されている場合を考えてみましょう。これらのデバイスは、同じユーザまたは複数のユーザによって所有されている可能性があります。共有電話を使用して、古い電話機を新しい Cisco IP 電話に移行しようとする、その DN を持つデバイスを所有しているユーザに対してのみ、回線 1 として移行が可能になります。ここでは、電話機の移行後に共有電話機能の設定が引き継がれます。

古い電話機が共有回線機能をサポートしていない場合、古い電話機の移行後に古い電話機の回線が削除されます。新しい電話機は、電話機を移行した後も古い電話機の回線を保持します。

